一般社団法人
日本肩関節学会
Japan Shoulder Society

Newsletter 12
2019.06

理事長あいさつ

一般社団法人日本肩関節学会理事長　池上博泰

日本肩関節学会会員の皆様、紙面をお借りしてご挨拶を申しあげます。

さて、2018年10月に理事長を拝命して８ヵ月が経過致しました。ご支援頂きました会員､代議員の皆様に厚く御礼申し上げます。理事長を拝命してからこの８ヵ月の活動を４点に絞ってご説明申しあげます。

1. 肩の運動機能研究会：

昨年の社員総会および今年の５月に開催された臨時社員総会でも報告され審議されましたが、学術集会時に併設されている肩の運動機能研究会と本学会との関係です。このことについては、以前から肩の運動機能研究会のあり方ワーキンググループで審議が進められていました。ワーキンググループでの審議および提案から、名称を「日本肩の運動機能研究会」に変更して、日本肩関節学会の傘下として活動していくこと、会員種別で、準会員１号・２号を設定することが、2019年５月11日の臨時社員総会で承認されました。今後は、それぞれの入会資格および権利、会費等について、引き続き審議されることになりました。

2. RSAガイドライン改定：

日本整形外科学会から本学会への依頼をうけて作成したガイドラインが発効（2014年４月）されてからマイナーチェンジは行ってきましたが、2019年４月に５年を経過したことからガイドライン改定案を作成しました。

改定内容は、日本骨折治療学会から骨折医がリバース型人工肩関節を使えるよう実施医基準変更の要望があったため、新たに骨折医向けに「上腕骨近位端骨折手術100例以上（うち、肩人工骨頭置換術10例以上）の経験を有するもの」と追加をして日本整形外科学会に提出をしました。しかし、日本整形外科学会の理事会では実施医のハードルがまだかなり高いということで、今後は日本整形外科学会内の医薬品・医療機器評価委員会内でこのガイドラインの改定について審議される見込みです。

3. 本年度の代議員募集：

現在、学会HP上に公示していますが、2019年度の代議員の募集人数は、５名となりました。５名のうち、理事会から正会員１名を推薦（理事会推薦枠）しますので、一般公募は４名となります。＊代議員募集人数の算出については、2019年５月11日の臨時社員総会議事録（会員専用ページに掲載）をご確認ください。

また2018年の社員総会で代議員選出規則の改定が承認され、2019年５月の臨時社員総会で会則の文言の訂正が承認されました。

現）なお、原則として、同一施設から複数の代議員を選出することはできない。

新）なお、原則として、同一施設から選出される代議員は２名までとする。

4. 功労会員制度設置

現在、会員の種別は正会員・準会員・名誉会員・賛助会員ですが、新たに功労会員を設置することが2017年10月の理事会で承認されました。

理事会で現在の名誉会員と新しく設置する功労会員の細かな基準を審議・検討しており、今後社員総会で審議を行なっていく予定です。

昨年の第45回日本肩関節学会学術集会から会員連絡会が中止となっていますので、本学会からのお知らせは逐次HP上で更新しておりますのでご覧頂けましたら幸いです。

末筆になりましたが会員の皆様の益々の御健勝並びに御発展を祈念申しあげます。

第46回日本肩関節学会学術集会の開催へ向けて

第46回日本肩関節学会学術集会会長　畑　幸彦（JA長野厚生連　北アルプス医療センターあづみ病院　統括院長）

日中は汗ばむほどの陽気となり、夏の近いことを実感する季節になりましたが、日本肩関節学会会員の皆様におかれましてはますますご清栄のことと存じます。

この度、2019年10月25日（金）、26日（土）に第46回日本肩関節学会学術集会を長野市にありますホテル国際21とTHE SAIHOKUKAN HOTELにおいて開催させていただきます。学術集会のテーマは「継往開来(けいおうかいらい)」です。「継往開来」とは、先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開くという意味です。これを踏まえて、日本肩関節学会が主題6題と日本肩の運動機能研究会が主題4題を用意しました。最終的に数を絞って学術集会の主題としたいと考えています。さらに、パネルディスカッション「腱板断裂の長期成績（10年以上、再断裂率、ゴール設定など）」と「アスリートの反復性肩関節脱臼」、コンバインドセッション「バイオメカニクスから見た投球肩障害」、およびシンポジウム「術後肩関節可動域の獲得のためにどう考え、どうアプローチするか」を全て演者指定で企画しました。活発なご討議をお願い致します。

また、平昌オリンピック　スピードスケート女子団体パシュート金メダリストの菊池彩花さんによる文化講演も企画しています。菊池選手は現役時代に再起不能と思われるような大けがから復活して金メダルを取った選手です。その復活の過程についてお話していただく予定です。

今回は、深い討論ができるように英語セッションを出来るだけ少なくしましたが、投球動作のバイオメカニクスでは世界的な権威者のDr. Fleisig GS (American Sports Medicine Institute)にはどうしても講演して頂きたくて大変多忙なところを来て頂きます。

参加していただいた皆様にとって充実した学会になりますように、プログラム内容をさらに練り上げて参りますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

信州長野には都会のような利便さはありませんが、その分、豊かな自然に囲まれた信州ならではの“おもてなしの心”を持って、本学術集会を運営してきたいと考えています。10月の信州は紅葉が素晴らしく、新そばがおいしい季節です。ぜひ皆様でお越しいただき、学術集会で活発な討論をしていただいた後は、秋の「さわやか信州」をお楽しみください。多くの皆様のご参加を重ねてお願い申し上げます。

第 47・48 回日本肩関節学会学術集会のお知らせ

第 47 回日本肩関節学会
学術集会会長：末永直樹（整形外科北新病院　上肢人工関節・内視鏡センター）
開 催 日：2020 年 10 月 9 日（金）～ 10 日（土）（予定）
開催場所：ホテルエミシア札幌、新さっぽろアークシティホテル

第 48 回日本肩関節学会
学術集会会長：岩堀裕介（医療法人三仁会　あさひ病院　スポーツ医学・関節センター）
開 催 日：2021 年 10 月 29 日（金）～ 30 日（土）（予定）
開催場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

各委員会報告

雑誌「肩関節」編集委員会

委員長　佐野博高

編集委員会では、現在 2019 年秋の雑誌「肩関節」第 43 巻刊行に向けて、ご投稿いただいた 162 編の論文の査読・編集作業を進めています。

日整会学術総会期間中の 2019 年 5 月 9 日には対面での会議を開催し、論文投稿時に記入していただく論文の分類表の改訂を行うこととしました。従来の分類表を単純化するとともに、反転型人工肩関節置換術などの項目を新たに追加して、投稿者の利便性向上を図りました。投稿規程やチェックリストについても若干の修正を加えていますので、本誌に投稿される際は、必ず日本肩関節学会の web site（http://www.j-shoulder-s.jp/entryrule/index.html）をご確認くださいますようお願いいたします。また、2010 年にオンラインジャーナルへの抄録集の掲載を中止した結果、各巻の 1 号が欠落している問題についても討議を行いました。当委員会としては、オンラインジャーナルには査読を経て正式に採択された論文を掲載していきたいと考えていますが、抄録集の扱いについては引き続き慎重に検討していく予定です。

もし本誌につきましてご質問・ご意見等がございましたら、事務局までお気軽にメールでご連絡いただければ幸いです。

国際委員会

委員長　三幡輝久

2019 年 10 月 16 日 ～ 19 日 に New York で 開 か れ る ASES (American Shoulder and Elbow Surgeons) Annual Meeting において、日本肩関節学会は guest nation として招待されています。菅谷啓之担当理事とともに ASES の committee と話し合いを重ね、日本肩関節学会と ASES との combined symposium、combined instructional course lecture を企画することになりました。Symposium は”Non-Arthroplasty Solutions for Massive Irreparable Rotator Cuff Tears” と ”Baseball Shoulder/Elbow topics” を、instructional course lecture では”Glenohumeral Instability” と”Rotator Cuff Anatomy & Repair ” を予定しています。日本の肩関節外科医とアメリカの shoulder surgeon の discussion が白熱することは間違いありませんので、楽しみにしていただけたらと思います。

また現在、学会 HP のお知らせ欄にて、ASES、SECEC への Traveling Fellow の募集を行っております。海外の著名な先生と交流させていただける機会などなかなかありませんので、是非ともご応募いただけたらと思います。

● 2020 年 ASES（米国肩肘学会）Traveling Fellow
留学期間：2020 年 10 月 2 日～ 4 日開催の ASES 2020 Closed Meeting (New York, New York) の前後 4 週間程度を予定

● 2020 年 SECEC（欧州肩肘学会）Traveling Fellow
留学期間：2020 年 9 月 9 日～ 12 日開催の SECEC 2020 Closed Meeting (Poznan, Poland) の前後 4 週間程度を予定

髙岸直人賞決定委員会

委員長　船越忠直

髙岸直人賞の対象論文は下記の如く

1. 当該年度の 12 月 31 日時点で、満 45 歳以下の会員の発表論文であること。
2. 候補論文は、当該年度の日本肩関節学会での発表論文であること。
3. 対象論文は、Update で魅力的で素晴らしい論文であること。
4. 髙岸直人賞の審査対象論文は、肩関節学会抄録集から選ばれてノミネートされた論文の中から Full paper か期限内に提出された論文とする。
5. 審査の対象となる論文は、日本文、英文のいずれでも可とする。
6. 上記の条件が満たされた論文は、雑誌「肩関節」、JSES（Journal of Shoulder and Elbow surgery）以外の雑誌に投稿しても可とする。
7. 審査対象は、ノミネートされた論文の Full paper ですでに Publish されたものは含まない。

とされています。

このルールに基づき本年度の髙岸直人賞は、5 月 10 日 (金) に横浜で行われた本委員会で以下の二つの論文に決定いたしました。

基礎論文：

白澤 英之 先生（慶應義塾大学　医学部　整形外科）

『レチノイン酸受容体アゴニストによる腱板断裂後脂肪浸潤の抑制』

臨床論文：

無藤 智之 先生　（信原病院　バイオメカニクス研究所　整形外科）

『腱板修復術の術後満足度に影響を及ぼす術前と術中因子の検討』

また、第 45 回日本肩関節学会のベストアブストラクトとして以下の 16 演題が選ばれました。

基礎：

森川　大智 先生　（順天堂大学 整形外科）

「間葉系幹細胞の供給源に関する解析 - 肩峰下滑液包と骨髄の比較」

市堰　徹 先生　（金沢医科大学　整形外科）

「骨髄由来間葉系幹細胞の肩関節内投与による疼痛緩和と軟骨保護」

中西　芳応 先生　（九州大学　整形外科）
「ヒト皮膚線維芽細胞細胞構造体の牽引培養による腱板組織の再生」
片岡　武史 先生　（神戸大学大学院 整形外科）
「ラット腱板断裂モデルに対する bFGF と PRP 同時投与の検討」
萩原　嘉廣 先生　（東北大学整形外科）
「発現変動タンパク解析による凍結肩の病態解明」
衛藤　俊光 先生　（東北大学　整形外科）
「肩関節前方脱臼に合併する骨欠損はいつできるのか?」
中脇　充章 先生　（北里大学　医学部　整形外科学）
「腱板断裂時に発現する神経ペプチドの検討」
大井　雄紀 先生　（兵庫医科大学　整形外科）
「日米ハイレベル投手の投球動作解析比較」

臨床：
佐野　博高 先生　（仙台市立病院　整形外科）
「Bristow 法・Latarjet 法術後における肩関節内応力分布の比較」
髙岸　憲二 先生　（サンピエール病院　整形外科）
「中学生野球選手の肩肘痛―全国調査の結果よりわかったこと―」
石谷　栄一 先生　（福岡志恩病院　整形外科）
「MRI による腱板断端 Stump 分類が ARCR 術後再断裂の予測因子となる」
安里　英樹 先生　（はえばる北クリニック）
「棘下筋回転移行術の長期成績」
三幡　輝久 先生　（大阪医科大学　整形外科）
「腱板修復術に肩上方関節包再建術を加えることで再断裂が減少する」
矢野雄一郎 先生　（とちぎメディカルセンターしもつが　スポーツ健康科）
「症候性腱板断裂の主な病態は肩関節外転拘縮である」
福島　秀晃 先生　（伏見岡本病院　リハビリテーション科）
「上肢挙上困難な腱板広範囲断裂の肩甲帯周囲筋の筋活動性」
田中　誠人 先生　（大阪警察病院　整形外科）
「Collision athlete に対する Bristow 法と Latarjet 法の術後成績比較」

お忙しい中、髙岸直人賞、ベストアブストラクトの論文選定にご協力をいただいた菅本一臣前会長はじめ、すべての代議員の先生に心からお礼を申し上げて、委員会報告と致します。

委員会構成
担当理事：伊﨑輝昌
委 員 長：船越忠直
委　　員：青木光広、北村歳男、後藤英之、佐野博高、末永直樹（次期会長）、菅本一臣（前会長）
中川滋人、夏 恒治、畑 幸彦（現会長）
アドバイザー：髙岸憲二、玉井和哉

社会保険等委員会

委員長　望月智之

多くの会員の先生方にご協力を戴きました 2017 年手術アンケートのデータ集計作業および解析が終了し、内容をまとめた論文を雑誌「肩関節」へ投稿しました。雑誌掲載決定後に学会ホームページでの公開も併せて行っていく予定となっております。

令和 2 年度の診療報酬改定に向けた新規医療技術の収載要望に 2017 年手術アンケート結果の一部を活用させて頂きました。今回、上腕二頭筋長頭腱損傷･障害に対する手術として、まず外科系学会社会保険委員会連合（外保連）に対して、観血的手術として「腱固定術（肩）」「肩腱板断裂手術（腱固定術を伴う）」、鏡視下手術として「腱固定術（肩）（関節鏡下）」「肩腱板断裂手術（関節鏡下）（腱固定術を伴う）」の計 4 術式を外保連試案への収載要望を行いました。外保連手術委員会において審議・承認を受け、2020 年試案に収載が決まりました。これをもとに提案要望書を外保連経由で厚生労働省へ提出しました。現在、本年 8 月に予定されている厚労省ヒアリングに向けて、実態調査に基づいた必要性・妥当性を十分に説明できるよう鋭意準備を進めております。

保険点数未収載の処置や手術手技、新たなインプラントや医療技術の革新、さらには関節鏡手術における単回使用製品の問題など、診療報酬は現在の医療技術の進歩に十分な対応ができておらず、多くの問題が山積みされております。本委員会としては、こうした問題点を是正すべく、今後も実態調査を行いながら改正や改善の要望を行っていく予定であります。

実態調査である手術アンケートは、外保連や中医協に対して新たな手術手技の申請・要望を行う上で、大変重要な資料となります。次回の手術アンケートは 2022 年に行う予定となっております。お手数をお掛けしますが、その際には会員の先生方にご協力を戴ければ幸いに存じます。

教育研修委員会

委員長　後藤英之

今年度の教育研修委員会の活動予定について報告致します。

第 11 回教育研修会を第 46 回日本肩関節学会開催期間中に開催予定です。

また、昨年同様キャダバーワークショップおよび、肩関節疾患手術手技フォーラムも日程を早めて、下記のごとく名古屋市にて開催する予定です。

【第 11 回教育研修会（第 46 回日本肩関節学会開催期間中）】
教育研修講演 1：
2019 年 10 月 26 日（土）7:00 ～ 8:00（予定）
座　長：後藤　英之（至学館大学　健康科学部　健康スポーツ科学科）

演題 1：肩のスポーツ障害の診断と治療
講　師：船越　忠直（慶友病院　整形外科）
演題 2：肩のリハビリテーション
講　師：小林　尚史（KKR 北陸病院整形外科）

教育研修講演２:
2019 年 10 月 26 日（土）8:05 ～ 9:05（予定）
座　長: 相澤　利武（いわき市立総合磐城共立病院　整形外科）

演題１: 肩関節周囲骨折の診断と治療指針
講　師: 大泉　尚美（北新病院　上肢人工関節・内視鏡センター）
演題 2: 肩関節周囲の神経障害　－臨床診断と治療の進歩－
講　師: 末永　直樹（北新病院　上肢人工関節・内視鏡センター）

【第４回日本肩関節学会（JSS）キャダバーワークショップ】
日　時: 2019 年９月６日（金）～７日（土）日程：２日間
会　場: 名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部　先端医療技術イノベーションセンター
（〒 467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1）

【第４回肩関節疾患手術手技フォーラム】
日　時: 2019 年９月６日（金）　18:30 ～ 21:00（予定）
会　場: 名古屋市立大学サテライトオフィス　会議室
（〒 450-6305　愛知県名古屋市中村区名駅一丁目１番１号
ＪＰタワー名古屋５階,「ミッドタウンクリニック名駅」内）

現在、学会 HP にて参加募集の案内をしておりますので、ご興味のある先生方は是非、ご検討をお願いします。
教育研修委員会では、研修会やワークショップを通じて会員の皆様の日々の診療のお役に立てるよう活動して参りますので、今後ともご指導、ご意見を頂けますようお願い致します。

学術委員会

委員長　森澤　豊

学術委員会は、担当理事は高瀬勝己先生で、委員として乾浩明、後藤昌史、小林勉、塩崎浩之、田中栄、畑幸彦、林田賢治、浜田純一郎、藤井康成、森原徹、山本宣幸の先生方から構成されています。委員長は森澤豊です。
活動内容ですが、まずは高瀬勝己理事が主となり肩鎖関節脱臼の検査方法、分類についてのアンケート調査結果を解析し Methods used to assess the severity of acromioclavicular joint separations in Japan: A survey というタイトルで英語論文の英文雑誌投稿に必要な承認を日本肩関節学会「倫理・利益相反委員会」より付与されました。次に、初回脱臼後の肩関節外旋位固定については山本宣幸委員から UMIN に登録画面が作成され、TRIALS に登録し海外に前向き研究の開始を発信することになりました。
今後の委員会活動として新たに、1. 断裂腱板の脂肪変性の程度が再建手術に及ぼす影響、2.RSA 術後の成績不良例の検討、3. 肩鎖関節脱臼アンケートからの結果から検討した治療方法に関する英語論文の作成、4. 成長期の投球障害肩の頻度についてなどが挙げられております。各々について前向き調査やアンケート調査など具体的な方法や、可否を含め検討していくこととしています。関係各位のご協力に感謝申し上げます。

広報委員会

委員長　北村歳男

広報委員会活動は日本肩関節学会会員および一般の皆様に日本肩関節学会における最新の情報や各委員会活動をお知らせすることにあります。今回の発行で 12 号になります。夏号（6月）と冬号（1月）の年に2回発行していますが、これらは日本肩関節学会ホームページ上に Newsletter として1号から 11 号まで全て閲覧が可能な状況です。そのボリュームは各号で差があります。報告事項や行事の量が時期により異なるためです。一般的には学会終了後の冬号は、夏号に比べてボリュームが多くなります。

委員会は、担当理事が望月由、委員は新井隆三、石田康行、大前博路、菊川憲志、北村歳男（委員長）、国分毅、小林勉、夏恒治、西中直也、松浦恒明、村成幸（五十音順：敬称略）で構成されています。各号で編集担当責任者がおり、10 号から2名体制の編集責任者を組んでいます。今回は菊川憲志先生と石田康行先生が担当でした。現在では掲載組み立てから仕事の分担、訂正など手際よく行い、web 会議の中だけで協議を持ち、順調な過程で発行を行うことが可能になっています。このような軌道に乗った委員会の活動は、いずれの委員の先生にも一定の仕事量を平等に受け持っていただいているおかげであり、学会事務局のしっかりした支援のおかげでもあります。大変感謝しています。

今後さらなる内容の充実を図るべく努力してまいる所存です。会員の皆様から、掲載希望の記事がございましたらふるって学会事務局にご連絡いただければ幸いです。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

定款等運用委員会

委員長　西中直也

本委員会の委員長として最も適任であった中川泰彰先生の任期終了に伴い、力不足ですが西中が引き継ぐことになりました。どうぞよろしくお願い致します。前回のニュースレター以後、本委員会は 2019 年 5 月 11 日の臨時社員総会と同じ日に、総会に先立って開催されましたので報告致します。

1. 代議員選出規則の変更について
   2018 年の社員総会において、原則として 1 施設 1 名を、1 施設 2 名まで選出可能とすることが決定されました。それに伴い以下の如く代議員選出規則を変更し、臨時社員総会で承認されました。

   （旧）原則として、同一施設から複数の代議員を選出することはできない。
   （新）原則として、同一施設から選出される代議員は 2 名までとする。

2. 功労会員制度設置について
   2017 年 10 月 5 日の理事会で功労会員設置が審議･承認され、2019 年 5 月 11 日の臨時社員総会において、これがアナウンスされました。今後本委員会で関連文書の審議を行ったうえで、理事会に諮り、2019 年 10 月の社員総会で審議いただく予定です。
3. 肩の運動機能研究会が一般社団法人日本肩関節学会に包括されることに伴う準会員の会員規則、会費規則について臨時社員総会において定款変更の必要がないことが確認されました。肩の運動機能研究会あり方 WG からの素案をもとに、会員規則、会費規則等必要な関連規則の改定案を作成します。理事会に諮り、本年 10 月の社員総会で審議いただく予定です。

今後も、委員の先生方のお力添えのもと本委員会がしっかり機能していくように努力していきます。どうぞよろしくお願い致します。

担当理事：伊﨑輝昌
委 員 長：西中直也
委　　員：柴田陽三、林田賢治、松村 昇、橋本 卓、森澤 豊
アドバイザー：中川泰彰
外部アドバイザー：柄澤 徹

リバース型人工肩関節運用委員会

委員長　山門浩太郎

前回のニュースレターにありますように、2018年10月より菅谷啓之先生を担当理事として戴く新たな体制でスタートいたしました。今期最大の案件は新ガイドラインの発効と考えております。

2013年5月の日本整形外科理事会にて承認されたリバース型人工肩関節（RSA）ガイドラインですが、数度の改正を加えられつつ発効後5年を迎え、本来であれば2019年3月で一旦終了し2019年4月より新ガイドラインが発効する予定でおりましたが、若干スケジュールに遅れが生じていることをご了承いただければ幸いです。

ガイドライン改正のポイントは「緩和」で、一つには骨折専門医（trauma surgeon）の受講資格を緩和すること、もう一つは適応要件を世界的趨勢に合ったものへと拡大することにあります。他国に比較し厳しいガイドラインを設定することによって我が国へのRSA導入は期待以上に成功したものと考えます。その上で門戸を広げ適応を拡大することにより、RSAを必要とする患者さんに不利益が生じないよう、また適応の拡大が行き過ぎないよう、公共福祉に資するガイドラインとなることを企図しております。みなさまにおかれましては、新ガイドラインが発効するまでの間は、既存のガイドラインを遵守いただけますようお願い申し上げます。また、適応に迷われる症例がありましたら、ご相談いただければと存じます。

最後に、RSA症例登録率は未だ100%にはいたっておりません。症例登録は講習会でご確認いただきました文言にありますように、「施行症例は全例日本人工関節学会におけるJAR（Japan Arthroplasty Registry）に登録を行うことを義務とする」、となっております。ご協力をお願い申し上げます。

選挙管理委員会

委員長　森原　徹

【2018年度　報告事項】（会期：2018年8月1日～2019年7月31日）

1. 代議員選挙

（ア）選挙結果

2018年10月18日施行の代議員選挙の結果、下記の代議員を選任した。

代議員選出規則第4条2推薦基準(1)～(3)該当者

新井隆三、黒川大介、菊川憲志、酒井忠博、二村昭元、松浦恒明（50音順）

（投票総数55票、最高得票数37票、最低得票数29票）

代議員選出規則第4条2推薦基準(4)該当者

谷口　昇（投票総数55票、信任44票）

（イ）選挙公示

2019 年度選挙を公示した。

2. 学術集会会長選挙

（ア）選挙結果

2018 年 10 月 18 日施行の学会学術集会会長選挙の結果、下記のとおり決した。

第 48 回日本肩関節学会学術集会会長　岩堀裕介

（投票総数 55 票、信任 55 票）

（イ）選挙公示

2019 年度選挙を公示した。

肩の運動機能研究会のあり方ワーキンググループ

委員長　浜田純一郎

2019 年 5 月 11 日の臨時社員総会にて、

(1)「肩の運動機能研究会」の正式名称を「日本肩の運動機能研究会」（以下研究会）とする

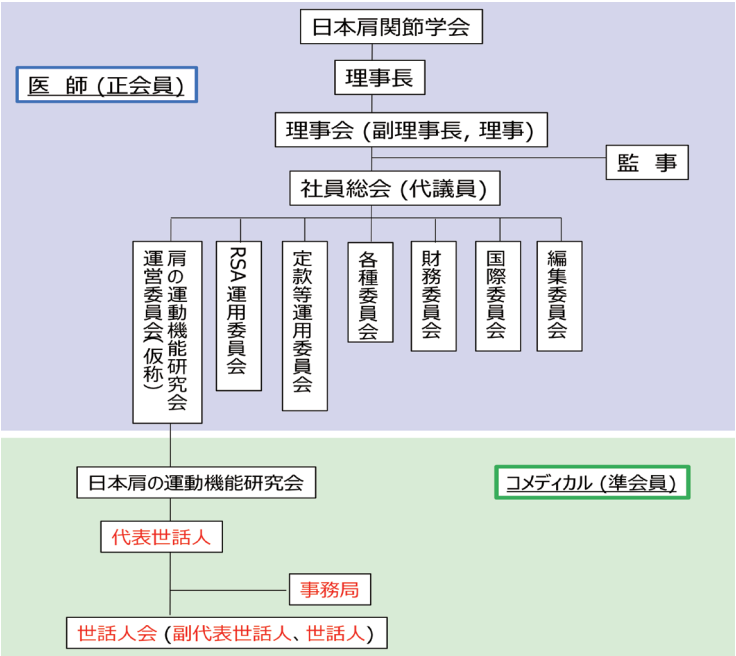
(2) 研究会を日本肩関節学会（以下肩学会）の内部組織と位置づけ、研究会運営委員会（研究会が正式発足後、現研究会のあり方 WG から運営委員会に名称変更）の下に置く（図参照）

(3) 研究会会員は肩関節学会の準会員になる必要があり、準会員1号と 2 号に分ける

の3点が審議、承認されました。

準会員1号は、肩関節学会・研究会ともに発表が可能、JSES の購読が可能、雑誌肩関節の購読・投稿が可能であり、肩関節学会からの情報提供（抄録集の郵送含む）を受け、正会員と同様の権利を有するのに対し、準会員 2 号は肩学会での発表と JSES の購読ができない点のみが 1 号と異なります。これで研究会の大枠が決定したことになりますが、正式な研究会の発足は 2019 年の肩関節学会学術集会前日の 10 月 24 日に開催される社員総会での最終審議後となります。

今後は研究会に関連する会員規則の整備、役員（代表世話人、副代表世話人、世話人）および各委員会の設置・構成員の選出など継続可能な組織に必要な環境整備を、定款等運用委員会や編集委員会と協力して行って参ります。肩関節学会の会員の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



トラベリングフェロー帰朝報告

KSES-JSS トラベリングフェロー

西中直也（昭和大学スポーツ運動科学研究所 / 昭和大学藤が丘病院整形外科）

写真１：Secretary general の Jae Chul Yoo 先生ご夫妻と。初日の夕食をご一緒しました。全てのスケジュールをマネージメント下さいました

2019 年 3 月 24 日から 4 週間、KSES-JSS traveling fellow として千葉大学の落合信靖先生と韓国に行って参りました。始めの 2 週間をソウル、残りの 2 週間は他の 6 都市に滞在し、全部で 18 施設を訪問する機会に恵まれました。まずは、このような貴重な機会を下さった国際委員をはじめとした諸先生方、そして日本肩関節学会 (以下 JSS) に厚く感謝申し上げます。

ソウルでは KSES annual meeting に参加しました。昨年の JSS 学会長の菅本一臣先生、本年の学会長の畑幸彦先生のご講演をはじめ、多くの JSS メンバーが発表し学会を盛り上げていました。私たち二人にも発表の機会がありました。KSES annual meeting は JSS 学会に比べると規模が小さい印象はありましたが、質疑応答は非常に活発でした。また、発表内容は最近の英文雑誌に掲載されているような内容が沢山あり、世界先端の臨床を実践していると感じました。非常に刺激を受けました。

ソウルで 10 施設、その他の地域で 8 施設を訪問しました。手術見学、外来見学、自分達のプレゼンテーションを含めたカンファレンスが主な内容でした。韓国は基本的に米国スタイルであり、各施設に professor が 1 人いて、その他は年ごとに入れ替わるフェローとレジデントのみの診療体制がほとんどでした。それでも手術件数は多く、最も多かった施設で 1 日に 13 件の手術がなされていました。したがって、手術の準備、手術そのものが非常に効率良くなされていました。また、フェローとレジデントが 1、2 年しか勤務していないにもかかわらず無理無駄のない動きをしているのは驚きでした。そして全ての施設で、最高の夕食、お酒が待ち受けていました。ご存知の通り、韓国の焼酎 (ソジュー) の飲みっぷりは半端ありません。病院訪問時にも沢山の有意義な会話が出来ましたが、夜はお酒の力を借りながら、さらに深く、ざっくばらんに日韓の肩の現況などについて語りました。その他、各地の歴史的名所や博物館に連れて行ってもらうなど、いずれの訪問地でも最高のおもてなしを受けました。

今回の訪問での印象として、韓国では全ての professor が自分のスタイルを持っており、治療方針、手術手技、患者に対する対応に絶対的な確信をもっているように思いました。それは揺るぎない自信に満ちていました。多くのフェロー、レジデントと交流を持つことが出来ました。その中で感じたのは英語のレベルが高いことです。それは彼らが世界に目を向けているからであり、見習うべきと思いました。一方、マイナスの印象としては KSES の elbow とは名ばかりで肘関節を扱っている施設は1カ所のみだったことです。肘分野は今後伸びる余地があると思いました。

写真２：来年の KSES 学会長の Joo Han Oh 先生と。エネルギッシュな先生です。

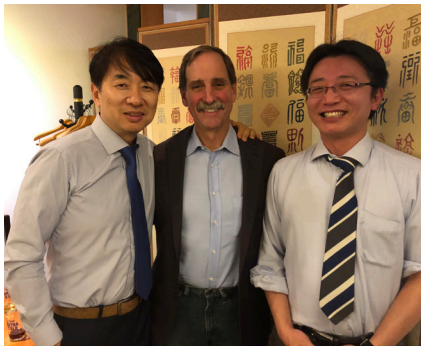
写真４：ユネスコ世界文化遺産の水原華城を２時間かけて制覇しました。

また、術前後の機能訓練は理学療法士との連携がないため物足りなさを感じました。理学療法士はリハビリテーション科医師の下でなりたっているからとのことでした。日本のリハの現状を誇らしく思いました。

最後になりましたが、落合先生に感謝を述べたいです。彼とでなければこのような充実した、楽しい旅路にならなかったと思います。今後、協力してJSSの発展に貢献していきたく思います。KSESメンバー、落合先生との出会いを宝にして今後、日韓の懸け橋となり、JSS、KSESの発展に寄与するべく努力していきたいと思います。本当にありがとうございました。

写真３：Gyeongsang national universityでの発表後の集合写真。貴重な体験でした。

KSES-JSS トラベリングフェロー
落合信靖（千葉大学　整形外科）



本年KSES会長であられたYon-Sik Yoo先生とGuest Speakerで来られていたFelix H．“Buddy”Savoie Ⅲ先生と

本年３月24日より１か月トラベリングフェローとして韓国に滞在し、多くの施設を見学させて頂きましたのでこの場を借りてご報告させていただきます。今回、昭和大学藤が丘病院の西中直也先生と御一緒させていただきました。西中先生は韓国の先生方の中で有名で、滞在中西中先生と面識のないホストの先生は２人のみとほとんどの先生とお知り合いで、韓国を訪れたのが人生初となる自分にとって大変溶け込みやすく、パートナーの先生に大変恵まれた、大変楽しい１か月を過ごさせていただきました。

韓国のシステムで、KSESの学会長は１年間の任期で、KSES終了で次の会長に引き継がれ、その事務的な役割をSecretary general（約５年くらいが任期のようです）の先生が行います。今回のトラベリングフェローでは本年のKSESまでのSecretary generalであられるSamsung medical centerのJae Chul Yoo先生に予定組み等を決めていただき、大変細やかな気遣いをされ、滞在中不便を感じることは全くありませんでした。３月のKSESではHallym UniversityのYon-Sik Yoo先生が学会長で、学会以降はSeoul national universityのJoo Han Oh先生が学会長となられ、Secretary generalがSeoul national universityのSae Hoon Kim先生がなられ、この滞在中特にSecretary generalのJC Yoo先生とSH Kim先生には大変お世話になりました。

最初の２週間はソウルに滞在し、その間でKSES annual meetingに参加し発表の機会をいただき、ソウルでの最終日には現会長のOh先生からcertificationをいただきました。この４週間で18病院の見学を行い、見

学した手術は鏡視下腱板修復術 28 件、オープンの腱板修復術 1 件、上方関節包再建術 2 件（韓国では正常部分から腱を採取するというのが患者さんから受け入れがたいようで、アキレス腱の allograft を多く使用しているようでした）、鏡視下バンカート法 7 件、リバース型人工肩関節置換術 10 件、オープン Latarjet1 件、ガングリオンによる肩甲上神経麻痺 2 件、鏡視下の debridement2 件、テニス肘に対する鏡視下 debridement1 件でした。多くの先生が lateral position で手術しており、beach chair position で手術を行っていた先生が圧倒的に少ない印象でした。また、それぞれの先生が自分のコンセプトをしっかり持っており、また非常に丁寧に手術をされており、大変興味深く手術見学をさせていただきました。

韓国での整形外科に関しては手術の技術等に関しては、日本とそれほど大きな違いはないかと思われました。一方、問題点としては韓国では手術に対する保険点数の低さが一つの問題と思われます。腱板修復術に関しては日本であれば鏡視下腱板修復術は簡単なものでも 27,000 点ですが、韓国では鏡視下腱板修復術が 3 万円と日本の約 1/10 となっており、病院の利益を上げるためには手術件数を増やしていく必要があるとのことでした。そのため、韓国の先生、特にソウルの病院では workaholic な印象を受けました。またリハビリテーションに関しては、理学療法士、作業療法士はリハビリテーション科の範疇とのことで、保存療法としてのリハビリテーション、術前、術後のリハビリテーションがほとんど行われず、セルフでのリハビリテーションがメインとのことでした。そこが一つの大きな問題と韓国の先生方も言っておられましたし、日本との大きな違いを感じました。一方、論文に関しては術前、術後等のデータをしっかりまとめられ、英語論文として発信している先生が多く、こちらは特に自分としても学ぶべき点でありました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった日本肩関節学会の理事、代議員の先生方、肩学会に私を推薦してくださった菅谷啓之先生にこの場をお借りして深謝いたします。また、1 カ月間苦楽？を共にし、自分の体調が悪いときは西中直也先生に幾度となく助けていただき、まさしく戦友ですが本当に有難うございました。そして、今回のトラベリングフェローで滞在中隅々まで気を配っていただいた JC Yoo 先生を中心とした KSES の先生方の hospitality は本当に素晴らしく、ホストの先生方同士で連絡を取り合い毎日のディナーで我々が何を食べたか、同じものが連続して出ないような気づかいをいただき、毎晩の飲み会で深酒も多かったのですが、とても良い関係を築けたと感じており、心から感謝しております。今後も KSES・JSS のお互いの友好と発展にわずかながらでも寄与できるように尽力させていただきたいと考えております。

写真２：ソウル最終日　KSES 現会長の Oh 先生から certificate をいただきました

写真３：新・旧 Secretary General の JC Yoo 先生と SH Kim 先生とのゴルフ

写真４：KSES の God father であられる Kwang Jin Rhee 先生

事務局からお知らせ

2019 年、早くも半年が過ぎ、あと 1 か月で新会期 2019 年度（会期:2019 年 8 月 1 日～ 2020 年 7 月 31 日）が始まります。

月日が過ぎるのは早いなと感じながらも、新会期が始まるとすぐに代議員・第 49 回学術集会会長に立候補された先生方の選挙公示準備や、9 月の第 4 回キャダバーワークショップ、第 4 回手術手技フォーラムの開催、そして 10 月の第 46 回日本肩関節学会学術集会が行われますので、またあっという間に半年が過ぎていくのだろうと実感しています。

今年は 10 月後半から、SECEC から Fellow 2 名が来日し、第 46 回日本肩関節学会学術集会に参加した後、仙台、東京、九州、名古屋、大阪の先生方のご協力のもと、各施設への見学で 2 週間滞在する予定です。現在、Fellow 2 名や各地区の担当の先生と連絡を取りつつ、スケジュールを確定しています。前回はじめての試みで KSES Fellow2 名から滞在の感想を寄稿してもらいましたが、今回も Fellow 2 名の滞在の感想などをニュースレターで紹介できるのではないかなと思っております。

編集後記

広報委員会
菊川憲志

日本肩関節学会ニュースレターも今回で 12 号となりました。このニュースレターが発行される頃は沖縄を除く全国で梅雨のシーズンではないかと思います。無事発行に至り、執筆頂きました先生方、広報委員会の先生方、学会事務局の皆様に感謝申し上げます。

2018 年の日本肩関節学会より会員連絡会が中止となり、理事会や社員総会における決定事項、各委員会からの報告、トラベリングフェロー報告など、ニュースレターの果たす役割がますます大きくなりました。広報委員会でも、読んで頂けるニュースレターを心がけ、年 2 回作成にあたっております。様々な報告の中から、本学会が目指す方向性、海外の肩関節外科医・学会の現状や考え方など、少しでも感じ取って頂ければと思います。

あるプロレスラーが引退試合のとき、「人は歩みを止めたときに、そして挑戦を諦めたときに年老いていくのだと思います。」と言ってリングを去りました。日常臨床を行いながら、研究発表・論文投稿に加え、さらに海外に向けた情報発信を行うには日々の絶え間ない努力が必要であり、結果は必ずついてくると思っています。5 月より元号が令和となりました。令和が希望に満ちた時代となるよう切に願っています。

一般社団法人
日本肩関節学会
Japan Shoulder Society

編　集：　一般社団法人日本肩関節学会　広報委員会
望月由（担当理事）、北村歳男（委員長）、新井隆三、石田康行、大前博路、菊川憲志、国分毅、小林勉、夏恒治、西中直也、松浦恒明、村成幸

発　行：　一般社団法人日本肩関節学会
〒 108-0073　東京都港区三田 3-13-12　三田 MT ビル 8 階　株式会社アイ・エス・エス内
TEL03-6369-9981/FAX03-6369-9982
E-mail office@ shoulder-s.jp　URL http://www.j-shoulder-s.jp/